

安全対策検討会の設置目的

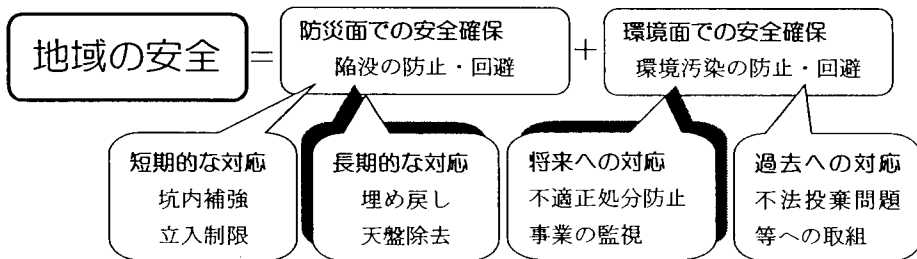
- ・ 大谷石採取場跡地の安全対策に、今後地域が取り組む上での基礎づくり
- ・ 当面する溶融スラグによる埋め戻し事業に関する諸課題の解決策の検討

安全対策検討会の検討経過等

- ・ 大谷町6自治会、大谷創生協議会、大谷石材協同組合の各代表者が参加し、有識者の指導・助言のもと、8月下旬～10月末までに計10回開催

検討結果（概要）

#1 安全対策に取り組む上での視点



- ・ 安全対策の推進に当たっては、生活域の安全確保を最優先に考え、陥没防止を目的とした抜本的な安全対策工法である埋め戻しが重要である。
- ・ 埋め戻しの推進に当たっては、地域が一丸となって取り組むための「安全・安心の仕組み」をつくり、防災・環境両面での安全確保を図る。
- ・ また、安全確保の円滑な推進に向けて、実施可能な空洞から、順次、適切な工法により安全対策に取り組む。

#2 「安全・安心の仕組み」

- ・ 事業関係者の責任ある事業遂行を確保するため、地域独自の「安全管理の仕組み」をつくり、併せて、地域・事業者・行政等が連携し、地域の意向を反映した安全対策を安全かつ確実に進めていくための推進管理体制として、「地域ネットワーク」を構築する。

#3 溶融スラグによる埋め戻し事業に対する評価

- ・ 当該事業は、陥没防止を目的とした長期的な安全対策として評価できることから、溶融スラグを埋め戻し材料の選択肢の一つとして位置づけるためには、特区の認定を取得することが望ましい。
- ・ 埋め戻し事業は、安全対策会議（裏面参照）における十分な検討を踏まえ、関係地域内の自治会の同意による環境保全協定を締結した上で行う。

♪ 「安全・安心の仕組み」の必要性

